

2009年5月10日

野尻作成

## 浄閑寺所蔵の正和2年11月日銘板碑の追刻銘について

### 1 調査に至る経過

八千代市村上の正覚院本尊「木造釈迦如来立像」（千葉県指定文化財）の延宝2年霜月吉祥日の修理銘札に「願主武州三輪村靈吟寺門弟願誉貞故」、厨子扉の墨書に「武州江戸三輪村靈吟寺 願主願誉貞故」とあり、平成19年8月八千代市の村上明彦氏から「三輪村靈吟寺」について問合せを受けた。今年度、八千代市立郷土博物館（担当主任学芸員佐藤誠氏）で同仏像の展示を開催していることを知り、同館に連絡し報告書等を入手した。情報があれば、展示に反映したいとのことであった。

### 2 調査中間報告

三ノ輪浄閑寺には鎌倉時代の板碑があり、近世の追刻がある板碑として知られている。

正覚院釈迦如来像の首柄に書かれた墨書「松誉玄清 南無阿弥陀仏」の戒名は、浄閑寺の板碑の裏面銘「生国摂州大坂幾玉之住、奥田氏松誉玄清 延宝三乙卯年五月廿九日」の戒名に同一である。また、同院蔵の絹本墨色地藏菩薩像には年未詳だが「松誉玄清奥田氏菩提之為」の墨書があり、板碑裏面銘にある「奥田氏」と同じである。

さらに「浄閑寺過去帳」第老号冒頭の歴代住持の「二世聲蓮社念誉上人願故靈吟和尚 延宝二甲寅歳正月廿九日 十四年」と見える。

浄閑寺は、元禄9年の「浄土宗寺院由緒書」巻下（『増上寺史料集』第7巻）によると、寛永6年正月25日天蓮社晴誉上人随行順波和尚の開山とされる。開山を明暦元年ともいう（東京都公文書館蔵「浄土宗明細帳」、『浄閑寺と荷風先生』『南千住の民俗』）。

順波は寛文元年に没し、二世靈吟がこれを継いだ（過去帳）。「三輪村靈吟寺門弟願誉貞故」の「靈吟寺」とは、浄閑寺二世住持の名で呼んだものではなかろうか？また、釈迦如来像の願主「門弟願誉貞故」の戒名も二世「願故靈吟」の「願」「故」を通字としているとも考えられ、「三輪村靈吟寺」が浄閑寺である可能性が高いと推定される。

#### 〔関係年表〕

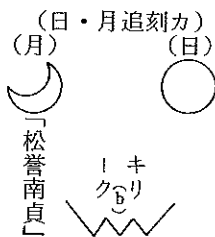
1629	寛永6年正月25日	天蓮社晴誉上人随行順波和尚浄閑寺開山（浄土宗寺院由緒書）
1655	明暦元年	天蓮社晴誉上人随行順波和尚浄閑寺開山（浄土宗明細帳他）
1674	延宝2年正月29日	浄閑寺二世聲蓮社念誉上人願故靈吟和尚没（過去帳）
1674	延宝2年霜月吉祥日 年未詳	「願主武州三輪村靈吟寺門弟願誉貞故」修理銘札 「松誉玄清奥田氏菩提之為」（絹本墨色地藏菩薩像）
1674	延宝3年5月29日	「生国摂州大坂幾玉之住、奥田氏松誉玄清」（浄閑寺板碑追刻）

浄閑寺

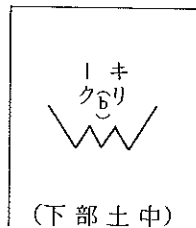
南千住2-1-12



円通寺



「浄誉妙清 貞順信女」  
 迎誉按意 妙寿信女」  
 正和二年十一月日  
 「心誉清月 華理信女」  
 願誉順誓 貞寂童女」  
利信女」



法量	高	71.0		法量	高	40.6 (下部土中)	
	幅	24.0	26.0		幅	26.1	26.5
	厚	2.2	2.3		厚	3.3	3.4
備考	裏面追刻「生国撰易大坂幾玉之住」「奥田氏松誉玄清」「延宝三乙卯年五月廿九日」文献『東京都板碑所在目録』			備考	下部をコンクリートで固定。『東京都板碑所在目録』は高さを54cm、下欠とし、「嘉□」の銘文ありとする。		